

交差点にLED付音響装置

高齢者・視覚障害者用

大阪府で全国初の社会実験

大阪府内で高齢者や視覚障害者にやさしい信号装置の社会的実験が、全国に先駆けて始まっている。大阪市内の鶴見警察署（鶴見区）前の交差点

にこのほど、高齢者・視覚障害者用「LED付音響装置」が8基設置された。実験的に実用性について検証中。全高1.5メートルの黄色い円筒（ポール）状の装置で、通常の信号機の補助的役割を担う。高齢者や視覚障害者などの弱者が安全に横断できる装置だという。

歩道に立った場合、設置場所が遠い上、高所にあることが多い。このため弱者にとっては視認性が十分との指摘がある。また音響信号機は近隣住民への騒音に対する配慮から、早朝や夜間は多くの交差点で誘導音が止められてしまう傾向がある。対してLED付音響装置は設置場所を交差点手前の低い場所とし、

歩道に立った場合、設置場所が遠い上、高所にあることが多い。このため弱者にとっては視認性が十分との指摘がある。また音響信号機は近隣住民への騒音に対する配慮から、早朝や夜間は多くの交差点で誘導音が止められてしまう傾向がある。対してLED付音響装置は設置場所を交差点手前の低い場所とし、

全国で主流の歩行者用信号機は、弱者が横断し、

歩道に立った場合、設置場所が遠い上、高所にあることが多い。このため弱者にとっては視認性が十分との指摘がある。また音響信号機は近隣住民への騒音に対する配慮から、早朝や夜間は多くの交差点で誘導音が止められてしまう傾向がある。対してLED付音響装置は設置場所を交差点手前の低い場所とし、

歩道に立った場合、設置場所が遠い上、高所にあることが多い。このため弱者にとっては視認性が十分との指摘がある。また音響信号機は近隣住民への騒音に対する配慮から、早朝や夜間は多くの交差点で誘導音が止められてしまう傾向がある。対してLED付音響装置は設置場所を交差点手前の低い場所とし、

横断歩道の手前に設置した。歩道側に点字板、LED信号表示灯、押しボタンスイッチなどがあ



設置場所の交差点に、音響装置が設置された。LED付音響装置が設置された。

しかも黄色いポールが異彩を放っている。弱者や背の低い小学生にもしっかりと認識できる。ポールの信号表示灯はLED表示のため、信号の色がくっきりと浮かび上がる。遠方からでも識別が容易だ。備え付けの押しボタンを押すと、早朝や深夜であっても誘導音による信号案内を行う。

「視覚障害者向けの展示会などにLED付音響装置を出展したところ、弱者から『これを交差点に設置してもらいたい。』という質問が多々寄せられている」という。同社では「できるだけ早期に全国各地の導入してもらえよう、地域住民や地方自治体に働きかけていきたい」とコメントしている。